

## 第2回活力ある高校づくり推進協議会(H29.9.3)での委員の主なご意見に対する学校の取組みや改善策

分野	第2回協議会での委員の方々からのご意見要旨	高校の取組・改善策(案)	参考
授業改善について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の授業はどうしても講義形式になりがち。小中高のリレーを大切にして授業改善に取り組んでもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を職員研修や授業改善のテーマとして取り組んでいるところ。来年度入学生から導入する30人学級も効果的と考える。</li> <li>・授業改善に有効なプロジェクターやICT機器は、30年度の創立70周年記念事業で同窓会に一部を支援いただける予定。</li> <li>・今回のYCK報告会や理数科課題研究発表会でのプレゼンなど、生徒自らが発信する機会を多くつくりたい。</li> <li>・中学校との連続性を考え、互いの授業を見学したり意見交換の機会をつくり、中学校との人事交流も可能な限り進めたい。</li> </ul>	
カリキュラム、コース選択と大学進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の同級生は、高校卒業後、多数が福祉方面に進んだが、その後他業種に転職した。視野を広げてから職業選択をさせることが大切ではないか。</li> <li>・自分の会社では、大学を出た語学堪能で視野の広い人を採用したいと思っている。</li> <li>・地域連携等もよいが、やはり、吉城高校にとっては進学希望の生徒をどう伸ばすかが重要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合コース」もあくまで普通科目の中での選択であり、その進路に進むために有利ではあるが、進路を固定するものではない。</li> <li>・YCKの取組みは、新しい高大接続改革(=大学入試改革)の中で特に重要とされるものであり、進学と相反するものではない。地域の教育資源を活用し、進路実現を図るものである。</li> <li>・「<u>学び探究コース</u>」は難関大学に照準を合わせた学力向上を目的としたコースであり、「<u>理数科</u>」では、<u>岐阜県版SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)</u>の予算を利用して教育環境を整備していく予定。</li> </ul>	資料3
地域との繋がり、地元企業との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の我々と学生との間に温度差を感じる。地域のしがらみが嫌やで帰ってきたくないという若者も多い。</li> <li>・地域行事に参加するのは異年齢の人とのコミュニケーション能力がつくのでよい。しかし、大学へ進学すると様々な能力が高まり、地域企業の採用に関するニーズと合わなくなる。</li> <li>・企業とのつながりを増やすために例えば、アルバイトを単位認定するような仕組みを考えてはどうか。</li> <li>・祭などの地域行事に参加するのは中学生までで、高校生になると関係が切れてしまう印象がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YCKプロジェクトは、生徒の成長と地域の活性化の2つを目標として進めていく。</li> <li>・2月14日に飛騨市商工課と連携して、1・2年生対象に高校で「地元企業を知る」機会を設ける。大学等へ進学する生徒にも、「働く」の意識を高め、Uターンを支援できるしくみをつくりたい。</li> <li>・就業体験は重要であり、アルバイトは許可制で認めている。専門高校では、「<u>デュアル・システム(企業実習)</u>」として、就業実習を単位にする事例もあるが普通科高校では事例が少なく、単位制移行を機に研究したい。</li> <li>・古川祭りの4月20日を来年度から「休業日」に設定する予定。今後様々な形で高校生が祭に関わる可能性が拡大する。</li> </ul>	資料4
地域との連携、地域と高校を繋ぐ人材について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員も多忙であるので、YCKに専門で関わる教員が必要ではないか。</li> <li>・高校生になると地域との関わりが薄くなる。高校生と地元住民との繋がりをもつことは大切である。単発の活動では課題解決力を伸ばすことができるか疑問なので計画的に進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YCKは教員が主に指導してきたが、地域と高校を結ぶ「キャリア教育コーディネーター」を来年度の飛騨市と高校の予算で2名配置する予定であり、既にYCKリーダー研修などで活動に関わっていただいている。</li> <li>・新しい学習指導要領で謳われる「<u>社会に開かれた教育課程</u>」として、YCKを「<u>授業</u>」や「<u>総合的な学習の時間</u>」に位置づけ、教育計画に組み込みたい。</li> <li>・教員免許を持たないが専門的な知識を持つ方を「<u>特別非常勤講師</u>」として任用する方法も検討したい。</li> </ul>	資料5 資料6